

## 第100回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2019年12月4日（水）10:00～18:00

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：（委員24名中、出席者21名 敬称略）

松永（東芝 ESS）、山田（中部電力）、稲田（電中研）、永田（日立 GE）、前川（関電）、笠原（東大）、今井（東電 HD）、月森（JAEA／福井大）、中村（川崎重工）、高屋（JAEA）、定廣（富士電機）、吉田（テプコシステムズ）、平野（IHI）、野村（CSE）、杉江（原安進）、兼近（鹿島建設）、三原（電気協会）、佐藤（発電技検）、朝田（三菱重工）

欠席：栗飯原（東大）、小山（日本製鋼所）、望月（大阪大）

代理：佐伯（電中研：三浦委員）、堂崎（日本原電）

オブザーバー：北条（三菱重工）、齋藤、荻原、寺田（東芝 ESS）、高田（関電）、清水（日立 GE）

事務局：渡邊、澤田石、高柳

4. 配布資料

100-0：第100回原子力専門委員会議事次第案

100-1：第99回原子力専門委員会議事録案

100-2：投票結果

100-3-1：新規質問及び未回答質問

100-3-2：発電用設備規格公衆審査結果

100-4：第91回発電用設備規格委員会議事録案

100-5：原子力専門委員会委員／分科会委員（案）

100-6-1：日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 2020年度活動計画

100-6-2-1：原子力専門委員会運営に関する検討状況報告

100-6-2-2：原子力専門委員会 規格作成時におけるチェックリストの運用に関する内規の制定 原子力専門委員会投票 No. 549 意見回答

100-6-3：発電用設備規格委員会投票 No. 430「意見取扱い内規案に対する投票結果」意見対応の承認に対するメール審議 No. 54 意見回答

100-6-4-1：原子力規格類協議会活動状況

100-6-4-2：学協会規格高度化WG報告書案コメント対応

100-6-4-3：学協会規格高度化WG報告書案

100-6-5：熱流動に起因する疲労損傷防止指針検討タスク（仮称）設置提案

100-6-6：規制庁引用規格正誤表技術評価対応

100-6-7：ASME Code Week の概要報告

100-6-8：リスク情報活用検討タスク活動計画

100-6-9：発電用設備規格の電子配信へ向けての取り組み

100-6-10：第100回原専委大阪開催アンケート結果

100-7-1：DC19-34(QNC2012-07)「準用する JIS 規格の適用年版に関する経過処置」の質問回答案

100-7-2：設計・建設規格2019年追補公衆審査版からの変更提案

100-7-3：設計・建設規格第I編2020年版改定案（その1）原専投票意見対応案

100-7-4：設計・建設規格第I編2020年版改定案（その2）原専投票提案

100-8-1-1：材料規格2019年追補改定案（その2）（JIS規格2018年改正対応）規格委投票意見回答案

100-8-1-2：材料規格2019年追補改定案（その3）（記載適正化組織変更反映）規格委投票意見回答案

100-8-2-1：材料規格2019年追補改定案（その2）（解説追記）原専委投票意見回答案

100-8-2-2：材料規格2019年追補改定案（その3）原専委投票意見回答案

100-9-1：地震荷重の見直し

100-9-2：事例規格BWRクラス1配管類のSCCに対する検査と評価

100-9-3：検査章の軽微な修正

100-10-1：溶接規格2020年版案（その1）原専投票意見回答案

100-10-2：溶接規格2020年版案（その2）原専委投票提案

100-11-1-1：金属キャスク構造規格材料規格の妥当性確認結果に対する原専委メール審議意見回答案  
100-11-2-1：金属キャスク構造規格改定案原専委投票(構造設計)意見回答案  
100-11-3-1：金属キャスク構造規格改定案原専委投票(製造検査)意見回答案  
100-11-4-1：金属キャスク構造規格改定案原専委投票(FCD300 材料規格)意見回答案  
100-11-5-1：金属キャスク構造規格改定案原専委投票(ASME SA350M 材料規格)意見回答案  
100-12-1：高速炉規格 2020 年版改定案（その 1）原専委書面投票意見対応  
100-12-2：高速炉維持規格原専委再投票意見対応  
100-12-3：高速炉 LBB 評価ガイドライン案原専委再投票意見対応案  
100-12-4：高速炉規格 JIS 規格 2017 年改正対応案  
100-12-5：高速炉規格他規格準用不整合修正提案  
100-12-6：高速炉規格 2018 年追補正誤表提案（その 1）  
100-13：分科会報告

## 5. 議事内容

### (1) 開会

松永委員長が委員会開会を宣言した。

### (2) 出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

### (3) 議事次第案確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

### (4) 前回議事録案確認【資料 100-1】

前回議事録案は既に事務局から関係各位に送付し、コメントを反映済。主な内容を紹介し、議事録案は承認された。

### (5) 投票結果報告【資料 100-2】

事務局より、原子力専門委員会書面投票 No. 538 から 556、原子力専門委員会メール審議 No. 52 から 54、規格委員会書面投票 No. 442 から 449、規格委員会メール審議 No. 44 の結果が報告された。この中で、今回、原子力専門委員会委員長の選任投票を書面投票 No. 556 として投票用紙による無記名投票として実施し、松永委員長が再任されたことが併せて報告された。

### (6) 新規質問及び未回答質問【資料 100-3-1】

事務局より、設計・建設規格第 I 編に関する 1 件の新規質問受付が報告された。

### (7) 発電用設備規格に関する公衆審査結果【資料 100-3-2】

事務局より、発電用設備規格に関する公衆審査状況が以下の通り報告された。

維持規格 2019 年追補及び事例規格集（案）

公衆審査期間：2019 年 10 月 8 日（火）～2019 年 11 月 8 日（金）

意見なし。

材料規格 2019 年追補（案）

公衆審査期間：2019 年 11 月 12 日（火）～2019 年 12 月 12 日（木）

意見受付中

### (8) 第 91 回発電用設備規格委員会報告【資料 100-4】

事務局より、第 91 回発電用設備規格委員会の議事概要として、原子力専門委員会委員の承認状況、規格委員会幹事会状況、原子力関連学協会活動状況、規制庁状況等について報告された。

(9) 原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 100-5】

事務局から以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕 稲田幹事、佐藤委員

〔退任〕 市川委員

原専投票 No. 556 の結果、次期原子力専門委員会委員長として、松永 圭司候補が選任された。

設計・建設分科会：なし

材料分科会：

〔退任〕 境委員

〔新任〕 松岡氏（東電 HD）

維持規格分科会：

〔再任〕 水谷委員、望月委員、北条委員、折田委員

〔新任〕 藤中氏（日本原電）

溶接分科会：

〔再任〕 神垣委員

〔退任〕 境委員

〔新任〕 松岡氏（東電 HD）

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕 松田委員

第 102 回使用済燃料貯蔵施設分科会において、分科会委員互選により、北瀬氏を新副主査に選任。

認証・認定分科会：なし

コンクリート製格納容器規格分科会：

〔再任〕 大橋委員

〔退任〕 武井委員

〔新任〕 佐藤氏（電源開発）

高温規格分科会：

〔再任〕 浅山委員、芋生委員、藤原委員

再処理設備分科会：なし

配管減肉分科会：

〔退任〕 濱口委員

〔新任〕 藤井氏（三菱重工）

疲労評価分科会：なし

過酷事故対応分科会：なし

竜巻影響評価分科会：

〔新任〕 白井氏（電中研）、山田氏（山口大学）、市野氏（防衛大）、佐藤氏（東電 HD）、北条氏（関西電力）、日下氏（日本原電）、萩原氏（東芝 ESS）、篠原氏（三菱重工）、清水氏（日立 GE）、大淵氏（鹿島建設）、吉田氏（大林組）、渡邊氏（大成建設）、大橋氏（清水建設）、野田氏（原安進）、丹羽氏（テラバイト）

事務局及びオブザーバー退室後、審議を実施。委員全員の賛成により、原子力専門委員会委員候補者の了解が得られ、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

(10) 原子力専門委員会運営に関する審議／報告

〔審議事項〕

(10-1) 原子力専門委員会 2020 年度活動計画【資料 100-6-1】

山田副委員長、稲田幹事より原子力専門委員会 2020 年度活動計画案に関する説明が行われた。前年度からの変更としては、日本機械学会の標準事業委員会が策定した配管内円柱状構造物の流力振動評価指針等の 3 指針

について、これら3指針は現在メンテナンスされておらず、一方で既に旧保安院により技術評価が実施されており、今後とも活用が必要なため、基本的に発電用設備規格委員会でメンテナンスする方向で検討すること。そのための検討を行うタスクを設置する。またリスクを規格に取り込むための検討として、目標信頼性検討タスク等を設置し、リスク関連の検討を実施する。また規格類協議会でのピアレビューの議論を踏まえると、活動計画方針を各学協会のホームページに掲載することが今後予想される。その場合は本資料の各分科会毎の活動計画ではなく、本資料の全体計画に掲載する。1ヶ月の期間でご意見伺いの書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。なお、溶接分科会分については一部差替があるため、差替後、書面投票を実施する。

**(10-2) 規格策定における誤記等チェックリスト内規案原専委投票意見回答案【資料 100-6-2-1, 2】**

用語統一検討タスク佐伯主査より規格策定における誤記等チェックリスト内規案の原専委投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。誤記防止チェックリスト No. 6 に「フォントの字体は正しいか？」という項目があるが、そもそも「誤記等の訂正に関する処置要領」において、フォントの修正は誤記としては扱わないので、チェックリストに入れることはいかなるものか？もし入れるなら、「誤記には当たらないが、規格の品質向上の観点から追加した」等の注記をすべきとの意見有り。これに対して、本件はチェックリストの中に残すこと、タイトルの「誤記防止チェックリスト」については本件は誤記のみを扱ったものではないため、「規格作成時のチェックリスト」にタイトルを修正し、併せて「誤記防止」が前面に出ない様に記載ぶりを修正し、最終的に原専委3役が確認することとした。その他意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に本案の書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

**(10-3) 委員会資料取扱い内規案規格委意見回答案に対する原専委メール審議意見回答案【資料 100-6-3】**

用語統一検討タスク佐伯主査より委員会資料取扱い案の規格委意見回答案に対する原専委メール審議（可決）意見回答案に関する説明が行われた。転載許可の取扱いについては、規格作成の手引き等で規定することとしているが、他の項目と同様に転載許可を確認する必要があるため、委員会資料取扱い内規案に追記した。意見回答案は妥当であり編集上の修正であること、規格委に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

**(10-4) 推奨表記集改定版のCS キャビネット保存場所【資料 100-6-2-1】**

用語統一検討タスク佐伯主査より上記議論の一環として、推奨表記集改定版のCS キャビネット保存場所の説明が行われた。事例規格発行内規も追って同様の対応とする。

**〔報告事項〕**

**(10-5) 原専委新三役の内定**

事務局より原専委投票 No. 556 の結果、次期委員長として松永委員長が再任されたことが報告された。また松永委員長より新三役は山田副委員長は留任、幹事は稲田現幹事が退任、高屋委員が新幹事に就任を内定との報告が行われた。

**(10-6) 原子力規格類協議会活動状況【資料 100-6-4-1, 2, 3】**

松永委員長より原子力規格類協議会活動状況の報告が行われた。第58回原子力規格類協議会が9月26日に開催。第13回規格高度化WGが11月8日に開催。学協会規格ピアレビュー試行の現地レビューが10月25日に開催。学協会規格高度化WG報告書案が完成し、関係各位にコメントを依頼し、コメント回答案をWGにて作成。

**(10-7) 熱流動に起因する疲労損傷防止指針検討タスク（仮称）設置提案【資料 100-6-5】**

稲田幹事より、熱流動に起因する疲労損傷防止指針検討タスク（仮称）設置提案の報告が行われた。日本機械学会の標準事業委員会は流動中の温度計さや管、PWR 蒸気発生器細管 U 字管部および配管分岐合流部を対象とした熱流動に起因する疲労損傷を防止するための指針類(3 指針)を制定した。本タスクでは、これらの指針について発電用設備規格委員会でメンテナンスすることを念頭において、現段階での改定の要否、追加すべき現象について検討を行う予定。関係者で準備会を開催して、今後の方針を議論する予定。

**(10-8) 規制庁引用規格正誤表技術評価対応【資料 100-6-6】**

松永委員長より、規制庁引用規格正誤表の技術評価対応の報告が行われた。11 月 20 日開催の規制委員会で、JSME が発行した正誤表に対する技術評価の報告が行われた。1 件を除き妥当であると判断。対象外となった 1 件は、JSME-N13 ニッケル・クロム・鉄合金 690 の記号の欄が GNC690HM の Sy を修正するもの。ASME 対応表では GNC690HM の相当材は ASME Code Case N-698 であるが、Code Case N-698 の Sy は原文の値と一致し、訂正後の値は導出できないとの指摘。全文チェックの結果、根拠資料では ASME SB-167 を引用しており不整合があることがわかり、正誤表を出したが、材料分科会で調査した結果、Code Case N-698 が正であり現状が正しく、根拠資料に誤りがあった。正誤表は取り消す方向で分科会で検討。

**(10-9) ASME Code Week の概要報告【資料 100-6-7】**

松永委員長より、ASME Code Week の概要の報告が行われた。以下の委員会の概要が報告された。

① Plant Systems Design Committee

② SDO Convergence Board

③ ASME/JSME Joint TG Sever Accident

④ ASME/JSME Joint WG RIM Process and System Based Code,

⑤ Seismic Design Steering Committee

④について、韓国からは地震条件の厳しくなったことに対する検討状況の紹介有り。JSME からは日本の新規制基準対応を紹介。今後設計基準地震動を超える地震に対する評価手法、弾塑性解析の適用等議論予定。

**(10-10) リスク情報活用検討タスク活動計画【資料 100-6-8】**

吉田委員より、リスク情報活用検討タスク活動計画の報告が行われた。活動目的は、原子力設備に対するリスク情報活用の方針を策定するとともに、他学協会の活動状況も踏まえて現状の国内外の知見を集約し、国内プラントに適用可能なリスク情報の活用方法と考え方をまとめる。活動計画としては、国内外のリスク情報活用に関する規格や事例の調査、原子力設備に対するリスク情報活用の方針の策定、国内の原子力設備に適用できるリスク情報活用方法の事例検討、ガイドライン・事例規格等のとりまとめを行う。工程としては 2020～2021 年度で計画。

**(10-11) 発電用設備規格の電子配信へ向けての取り組み【資料 100-6-9】**

松永委員長より、発電用設備規格の電子配信へ向けての取り組みの報告が行われた。対象規格は最新版と規則の解釈で引用されている年版／追補。正誤表の反映はしない。対象規格の WORD/PDF ファイルを各分科会から提供し、配信する JSA で PDF ファイルを作り、変換チェックも行うか、分科会で PDF を作成するかは今後調整必要。電子ファイルがない場合は紙をスキャナで読み取る。最終確認を各分科会とするかは今後調整。スケジュールは 2020/4 から電子配信の試運用開始を目標。2020 年版は電子配信に完全に移行することを目標とし、それ以降の追補の発行を取りやめ、2 年毎の完本版での年版発行とする。

**(10-12) 第 100 回原専委大阪開催アンケート結果【資料 100-6-10】**

稲田幹事より、第 100 回原専委大阪開催アンケート結果の報告が行われた。前回の第 100 回原専委は大阪で開催され、その際アンケートを取り、集計。主な意見は WiFi の利用、ペーパーレス、会議の終了時間等。致命的な問題はなかったが、不都合はいくつかあった。今後とも実施することへの反対意見はなく、次の地方開催について今後検討していく。

**(11) 原子力発電用設備規格に関する審議**

**(11-1) 材料規格に関する審議【資料 100-8-1, 2】**

材料分科会の山田主査より材料規格改定案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1) 材料規格 2019 年追補改定案 (その 2) (JIS 規格 2018 年改正対応) 規格委投票意見回答案【資料 100-8-1-1】

材料規格 2019 年追補改定案 (その 2) (JIS 規格 2018 年改正対応) 規格委投票 (可決) 意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案は妥当であること、規格委に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

(2)材料規格 2019 年追補改定案（その 3）（記載適正化組織変更反映）規格委投票意見回答案【資料 100-8-1-2】  
材料規格 2019 年追補改定案（その 3）（記載適正化組織変更反映）規格委投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案は妥当であること、規格委に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

(3)材料規格 2019 年追補改定案（その 2）（解説追記）原専委投票意見回答案【資料 100-8-2-1】  
材料規格 2019 年追補改定案（その 2）（解説追記）原専委投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。今回投票範囲の JIS H 3100 の 2018 年版は改正されており、「压力容器に使用する板及び条は種類の記号の P, PS, R 又は RS の後に V を付ける。」という規定になっていることから、これと材料規格との整合を図る必要があるとの保留票有り。そのため、これに対応した修正案の提案がなされた。本修正案は技術的な修正に該当するため、2 週間の期間で再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(4)材料規格 2019 年追補改定案（その 3）原専委投票意見回答案【資料 100-8-2-2】  
材料規格 2019 年追補改定案（その 3）原専委投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。外圧チャートについては全ての外圧チャートが ASME を基に見直した訳ではないため、それが分かる様な表現にすべきとの保留票有り。対応として「なお、次表に示す ASME 規格を基に見直した図表は、ASME 規格 2017 年版とも整合している」という文を追記。JIS 改正対応の記載の適正化については、2020 年版にて規格本文及び解説について、一括して「日本産業規格」に変更する。以上に対応した修正案の提案がなされた。修正案は編集上の修正であること、規格委書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(11-2) 金属キャスク構造規格に関する審議【資料 100-11-1, 2, 3, 4, 5】  
使用済燃料貯蔵施設分科会の佐伯主査、清水幹事より金属キャスク構造規格改定案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1)金属キャスク構造規格改定案原専委投票（構造設計）意見回答案【資料 100-11-2-1】  
金属キャスク構造規格改定案原専委投票 No. 551（構造設計関係：可決）意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案により規格案は修正されたが、技術上の修正に該当するため、再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(2)金属キャスク構造規格改定案原専委投票（製造検査）意見回答案【資料 100-11-3-1】  
金属キャスク構造規格改定案原専委投票 No. 552（製造検査関係：可決）意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案により規格案は修正されたが、技術上の修正に該当するため、再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(3)金属キャスク構造規格改定案原専委投票（FCD300 材料規格）意見回答案【資料 100-11-4-1】  
金属キャスク構造規格改定案原専委投票 No. 553（FCD300 材料規格関係：反対票有り）意見回答案に関する説明が行われた。反対意見は設計係数を 3 に変更しているが、4 を使用すべきではないか？というものと、設計係数を 3 にするなら ASME 規格程度の検査が必要ではないか？というもの。意見回答案により反対票は取下げとなり、改定案は可決となった。一方で意見回答案により規格案は修正されたが、技術上の修正に該当するため、再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・改定案で高温での材料試験を要求しているが、2007 年版に対しても要求すべきではないか？通常の改定であれば規格の旧版には遡及しないが、本材料は許容値策定のデータベースに懸念があるため、2007 年版を適用して金属キャスクを製作するなら、改定案同様、信頼性の確認を行う必要がある。

→規格を改定するたびに過去に発行した規格を修正するのはおかしい。また、その対応を行うためには正誤表を発行するか、事例規格を発行するかのどちらかとなるが、正誤表発行により高温での材料試験を要求することは無理。

→2007 年版を適用して金属キャスクを製作する場合、高温での材料試験をどうするかはユーザーが判断すべきではないか？改定案同様、自主的に高温での材料試験を実施するのではないか？

**(4) 金属キャスク構造規格改定案原専委投票 (ASME SA350M 材料規格) 意見回答案【資料 100-11-5-1】**

金属キャスク構造規格改定案原専委投票 No. 554 (ASME SA350M 材料規格関係：可決) 意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案により規格案は修正されたが、技術上の修正に該当するため、再書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。なお、FCD300 材料規格同様改定案で高温での材料試験を要求しているため、2007 年版に対する扱いは上記(3)と同様となる。

**(5) 金属キャスク構造規格材料規格の妥当性確認結果に対する原専委メール審議意見回答案【資料 100-11-1-1】**

金属キャスク構造規格材料規格の妥当性確認結果に対する原専委メール審議 No. 52 (可決) 意見回答案に関する説明が行われた。意見回答案により技術的な内容は変わらないが、報告書のタイトルの修正及び編集上の修正が発生する可能性があるため、それについては原専委 3 役に一任することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・本件、規制庁とは材料専門委員会の確認等受けることが約束となっている。結果的に確認等は得られていない状況であるため、材専としては判断できないという旨を、明記すべきではないか？

→意見者は具体的にどこにその文言を入れるか示すべき。4 章で、「規格委、材専委、原専委、分科会の関係者で審議した」と記載してあるので十分ではないか？ JSME として出す報告書なので、内輪の議論を書くべきではない。分科会、原専委では入れられないので、(入れるのであれば) 規格委で検討してもらうこととする。

**(11-3) 維持規格に関する審議【資料 100-9-1, 2, 3】**

維持規格分科会の野村主査、齋藤副主査、高田検査作業会主査より維持規格改定案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

**(1) 地震荷重の見直し【資料 100-9-1】**

地震荷重の見直しに関する規格委投票意見対応に伴う修正案の原専委再投票 (可決) 意見対応案に関する説明が行われた。意見対応案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に修正案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

**(2) 事例規格 BWR クラス 1 配管類の SCC に対する検査と評価【資料 100-9-2】**

事例規格 BWR クラス 1 配管類の SCC に対する検査と評価に関する原専委投票 (可決) 意見対応案に関する説明が行われた。直接の意見対応ではないが、本文規定をより明確化するために一部修正 (推奨表記を踏まえて「きずが検出された場合の亀裂評価」の記載ぶりの修正等) を実施。これらも含め、意見対応案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・意見対応表 No. 3 の保留意見は保持する。L は断面形状から求まるもので、非破壊試験によっては求めることは難しいのではないかと？例えば UT の結果、溶接金属への入射が分かったら、それを用いるということか？

→入射位置が明確になるため、それで良い。

**(3) 検査章の軽微な修正【資料 100-9-3】**

検査章の軽微な修正に関する原専委投票 (可決) 意見対応案に関する説明が行われた。意見対応案のうち、ハッチングしている箇所は提案を取り下げる箇所。P. 45 で表中の注釈番号の付ける位置を修正する提案を行っているが、表毎に付ける位置が異なっているのでは？というコメントを受けたので、再度見直すことにした。異材継手の名称の変更、呼び径表記の変更、予防保全適用に係る記載見直しもいったん取り下げる。「技術上の基準」は「技術基準」に修正。「及び」と「又は」の記載、漢字の記載ぶり等、追加で修正すべきものは別途提案。その他対応案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

**(11-4) 溶接規格に関する審議【資料 100-10-1, 2】**

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改定案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1)溶接規格 2020 年版案（その 1）原専投票意見回答案【資料 100-10-1】

溶接規格 2020 年版案（その 1）原専投票 No. 541（反対票有り）意見回答案に関する説明が行われた。「N-0070 溶接の特例」改定案は 2 票の反対票有り。回答案によっても取り下げされないため、設計・建設分科会と溶接分科会とで、本件協議する予定。「溶接士資格更新試験の追加」改定案は可決。現状規定案ではクラッド溶接に対して RT を要求する様に解釈される可能性があるため、修正。「JIS Z 2242 金属材料のシャルピー衝撃試験方法の適用年版」改定案は可決。JIS 改定評価で「問題ない」と判断した理由が示されていないため、それを追記。「事例規格集 溶接規格適用年版」改定案は可決。事例規格への「編入」という表記を「取込み」に修正。「N-0070 溶接の特例」以外の 3 件の改定案の意見回答案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

(2)溶接規格 2020 年版案（その 2）原専委投票提案【資料 100-10-2】

溶接規格 2020 年版案（その 2）原専委投票提案に関する説明が行われた。原専委投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

(11-5) 設計・建設規格に関する審議【資料 100-7-1, 2, 3, 4】

設計・建設分科会の朝田主査より設計・建設規格改定案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1)質問回答【資料 100-7-1】

DC19-34(QNC2012-07)「準用する JIS 規格の適用年版に関する経過措置」の質問回答案に関する説明が行われた。回答案「よい。」が承認された。

(2)設計・建設規格 2019 年追補公衆審査版からの変更提案【資料 100-7-2】

設計・建設規格 2019 年追補公衆審査版からの変更提案に関する説明が行われた。公衆審査版で「高ニッケル合金」としている記載を「高ニッケル合金」に修正。修正提案は妥当であること、規格委員会に提案することが承認された。

(3)設計・建設規格第 I 編 2020 年版改定案（その 1）原専投票意見対応案【資料 100-7-3】

設計・建設規格第 I 編 2020 年版改定案（その 1）原専投票（可決）意見対応案に関する説明が行われた。「JEAC4602-2016 の反映及び記載の適正化」提案については、改定内容に変更はないが、変更に伴い、主流路受入先のタンク名称の変更と弁開閉状態について 4 件の正誤表を発行する。意見対応案は妥当であり、規格委員会に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

(4)設計・建設規格第 I 編 2020 年版改定案（その 2）原専委投票提案【資料 100-7-4】

設計・建設規格第 I 編 2020 年版改定案（その 2）原専委投票提案に関する説明が行われた。原専委投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。なお、No. 8 の「全面的編集上の修正」提案については、今回、「設計・建設規格の書き方」及び「推奨表記集」を反映して、全面的に編集上の修正を実施した。範囲がかなり広いので、書面投票に当たっては、原専委委員で分担して、詳細にチェックを実施することになった。主な議論は以下の通り。

- ・全文チェック対応は終了したのか？→誤記と思われる箇所は大体完了した。
- ・耐圧漏えい試験は母材部には要求されないとしているが、労基法解説等によると、耐圧漏えい試験の目的は溶接継手の健全性を確認することとなっている。ただし、確証はない。関連規格の経緯を見ると、溶接継手の範囲を検査範囲に追加した際、耐圧試験圧力を上げることがあったので、溶接継手の健全性確認が主目的だったのではないかと。一方で、耐圧漏えい試験は全体の健全性を確認すべき試験であるという意見もある。→耐圧試験で母材の健全性を確認し、漏えい試験で溶接継手の健全性を確認するということ。

(11-6) 高速炉規格に関する審議【資料 100-12-1, 2, 3, 4, 5, 6】

高温規格分科会の高屋主査、LBB 規格作業会町田主査より高速炉規格改定案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

(1) 高速炉規格 2020 年版改定案（その 1）原専委書面投票意見対応【資料 100-12-1】

高速炉規格 2020 年版改定案（その 1）原専委書面投票（No. 544：可決）意見対応案に関する説明が行われた。意見対応案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

(2) 高速炉維持規格原専委再投票意見対応【資料 100-12-2】

高速炉維持規格原専委再投票（No. 550：反対票有り）意見対応案に関する説明が行われた。意見対応案により反対票は取り下げとなり、可決。意見対応案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

(3) 高速炉 LBB 評価ガイドライン案原専委再投票意見対応案【資料 100-12-3】

高速炉 LBB 評価ガイドライン案原専委再投票（No. 532, 548：可決）意見対応案に関する説明が行われた。意見対応案は妥当であり、編集上の修正であること、規格委に書面投票を提案することが委員全員の賛成により承認された。

(4) 高速炉規格 JIS 規格 2017 年改正対応案【資料 100-12-4】

高速炉規格 JIS 規格 2017 年改正対応案に関する説明が行われた。原専委投票を実施すること、原専委投票可決を条件に規格委へ投票提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(5) 高速炉規格他規格準用不整合修正提案【資料 100-12-5】

高速炉規格他規格準用不整合修正提案に関する説明が行われた。原専委投票を実施すること、原専委投票可決を条件に規格委へ投票提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(6) 高速炉規格 2018 年追補正誤表提案（その 1）【資料 100-12-6】

高速炉規格 2018 年追補正誤表提案（その 1）に関する説明が行われた。原専委メール審議を実施すること、原専委メール審議可決を条件に規格委へ正誤表提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(12) 分科会報告【資料 100-13】

各分科会より、分科会報告が行われた。

6. その他

委員会終了後、規格委代表と歴代原専委委員長を招いて、第 100 回記念式典を実施した。

原子力専門委員会の今後の予定は以下の通りとなった。

第 101 回原子力専門委員会：2020 年 3 月 4 日（水）10:00～17:30 JSME 第 1 会議室

以上